

## 平成29年度第1回河内長野市行財政評価委員会

日 時 平成29年8月10日（木） 午前10時00分～午前12時

場 所 市役所3階 301会議室

出席者 河内長野市行財政評価委員会 5名

事務局 小林総合政策部長、小川政策企画課長、谷ノ上政策企画課参事、  
及び政策企画課職員

事業担当課 農林課、産業観光課、広報広聴課、政策企画課

傍聴者 1名

### 1. 開会

### 2. 案件1. 委員委嘱、委員長・副委員長の選出について

### 案件2. 河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成28年度加速化及び推進事業等の評価について

#### <主な質問、意見>

#### ○加速化交付金事業①～⑩（農林課）

（委員）奥河内くろまるの郷エリアの全体として、各施設のコラボが重要である。また、体験プログラムに市内外からの校外学習等と呼び込むため、ノウハウを有する教育委員会と連携するなど、市の部局間連携も必要。

（担当課）今年度、体験プログラムを学校側へ提示できるよう、施設と連携して取り組んでいる。

（委員）自転車道整備など、奥河内くろまるの郷までのアクセス改善の取り組みはどうか。

（担当課）自転車道整備には多額の費用を要するため、マップ等で走りやすいルートを案内している。また、自転車の通行が増えることによる交通安全対策も今後検討していく。

（委員）サイクリングマップ作成に参加された方等とのその後の関わりは。

（担当課）今後もマップ改訂など、連携して進めていく。また、メンバーが独自に企画する自転車イベントの開催も予定している。

（委員）グリーンツーリズムについては、他地域でも活動が断続的になりがち。年間通じて参加できる方法をとっているか。

（担当課）現在は個々の行事のみだが、実施主体のNPOは年間通じての活動も検討されており、今後プログラムの内容の改良が必要と考える。

（委員）体験プログラムパンフレットの配布場所と、QRコードからの申込件数は。

（担当課）現時点では一部施設にのみ設置しているが、今後、行楽シーズンの到来にあわせて広く周知していく。QRコードからの申込件数は、開始後間もないため把握できていない。

（委員）防犯カメラは、設置後の個人情報保護についてはどのように考えるか。また、他市では徘徊する高齢者の発見に活用するなど、副次的効果を挙げている例もある。

（担当課）個人情報取扱基準を設けている。副次的効果については、24時間撮影しており、必要あれば役立てたい。

（委員）河川活用では、急な天候変化、増水への対応は。観光客への配慮も必要である。

(担当課) 災害時には市が門扉を施錠でき、適切に対応していく。観光客対応も含め、マニュアル化を検討したい。

(委員) BBQ セットレンタル等の予定はあるか。

(担当課) 手ぶらで BBQ は魅力的なサービスだが、課題もあり、現在、実施可能であるかを検討中である。

(委員) 森林所有者向けの基礎・販売戦略事業では、30年後の林業を見据え、次の担い手、新しい担い手を作る戦略が必要である。

### ○加速化交付金事業⑬（広報広聴課）

(委員) 鉄道沿線プロモーション事業について、都市部では週末を郊外で過ごすデュアルハビタットも増え、転入出数だけを指標とすべきかどうか。まず体験、その後定住につなげるような、段階を踏んだ施策も必要では。情報発信では、マスコミ、チラシ、SNS など各メディアの使い分け、さらに SNS は年齢層により Facebook、Instagram、twitter などの使い分けが必要。

(担当課) 本市は大阪市内から30分の好立地であり、可能ならすぐ居住につなげたいが、体験についても検討していく。年代、興味を絞り込み、伝えたい内容、ターゲットに応じた発信方法の選択や、各メディアの組み合わせにより効果的な発信に努めたい。また、今年度は、全職員対象にプレスリリースの研修を行い、読み手の視点から発信を考えていきたい。

(委員) 転入者数の増、転出者数の減の目標水準は。また、市外からの関心と憧れを獲得とあるが、「憧れ」とはどのようなものか。

(担当課) 総合計画では10年後に10万人をめざしている。「憧れ」は、世代により異なり、まずターゲット毎の魅力を把握し、発信したい。

(委員) 興味の無い方を惹きつけるには相当なインパクトが必要。また、外部からのアクセス、イベントへの参加者層、興味の内容など、市内各所に存在する様々な情報を分析することでターゲットを定めていくことが重要である。

(委員) 少ない経費でよく努力されている。シティプロモーションの有効性を示し、職員がやりがいを持って取り組めるよう、アウトプットの数値化を検討してほしい。

(担当課) 今年度の広報戦略プロモーション策定に向け協議している。

### ○加速化交付金事業⑭（政策企画課）

(委員) 「丘の拠点」(南花台) 創生事業は、様々な活動が展開され、多くの団体等が関わる素晴らしい事業である。大学など外部団体が関わることの効果はみられるか。

(担当課) もともと自治会活動等が活発な地域であったが、事業を進める上で、学生の関わりは大きいと感じる。重要業績評価指標 (KPI) には地域を担う人材の発掘を挙げているが、実際担い手となられた方74名という数字に表れていると考える。

(委員) この取組みを他地域にも広げていく予定はあるか。

(担当課) 今後の課題でもある。まず南花台での取組みの充実を図りながら、周辺団地とも連携

し、拡げていきたい。例えば買い物応援事業について、他地域からの興味の声もあり、ノウハウの提供や情報交換等により、地域間のつながりを作っていきたい。

(委員) ソーシャルビジネスはどのような内容か。

(担当課) 買い物応援を有償ボランティアとして実施しているほか、コノミヤテラスの部屋貸し事業、ファミリーサポート事業、ホームページ運営による広告収入の4件を挙げている。

## ○加速化交付金事業⑪～⑫、推進交付金事業①～③（産業観光課）

(委員) 奥河内のイメージについてどのように考えるか。

(担当課) 現在は自然を前面に出している。産品ブランドについても、自然豊かな土地で生産されたことをPRすれば、消費者にも受け入れられやすいと考えている。

(委員) お土産品の開発と販路拡大について、現在実施しているフルーツラリーから、どのようなお土産品の開発と販路拡大につなげていくのか。

(担当課) フルーツラリーはまず市内にPRし、その後市外へPRする方針を検討している。各店舗が河内長野産のお土産を販売したくなる状況を作っていきたい。

(委員) KPI を補う中間指標を検討してほしい。ブランド化においては、品質保証や他の商品との差別化が鍵となり、例えば一流のシェフが加わるなど、「誰が」審査するかは重要である。また、審査員はオープンであるべきである。

(委員) 販売場所、プロモーションについての考え方は。

(担当課) 28品の認定品毎に生産量の差や、収穫時期等が課題。当初は市外向けを想定していたが、現在は奥河内くろまろの郷を中心に、まず市内へのブランドの浸透を考えている。

(委員) ブランド認定後の総販売額の経年変化などのデータを示してほしい。

(委員) 防犯カメラ設置と商店街活性化の関連は。犯罪抑止と買い物客数の相関関係が見えない。

(担当課) 犯罪の抑止、安全・安全につながるものであるが、必ずしも商店街の活性化にはつながらないところはある。

(委員) 地域での犯罪件数等の変化を分析すべきである。駐在所単位などから分析を。

(委員) 女性の就労において、一番の課題は何であると考えているか。

(担当課) ブランクが精神的な障壁になっていると考えている。また、正社員としての再就職が難しいことや、パソコンのスキル等も課題である。

(委員) セミナー受講者のうち、就労につながった件数は。

(担当課) 就職が4名、職業訓練への参加が1名、受講者の就労意識の向上につながったと考えている。

(委員) ひとり親家庭の方は何名参加されていたか。ニーズはあると思う。さまざまな団体との連携や、ひとり親家庭の方の再就職のための施策についても検討していただきたい。

(担当課) ひとり親家庭の方の参加状況は把握できていない。

(委員) 総受講者のデータに加え、就職・起業した方のデータを測定し、分析してほしい。

## ○全体を通して

(委員) 事業内容とKPIとの間に乖離がある。客観的・科学的に評価するためには、中間指標・

補助指標を導入すべき。

(委員) シビックプライド、市の魅力・愛着について考えると、奥河内では農業従事者が多く、農業は外すことができない。農業は、雇用、食、健康など、全てが暮らしの中に根付いている。農業をベースとし、奥河内くろまろの郷などを拠点に農業振興を進め、誇り・愛着につなげることが重要。女性の就労については、企業・NPO への就職、コミュニティビジネス、起業など、バリエーションが広がっている事実がある。一方で、手厚い支援が必要な方もあり、一人ひとりに寄り添った支援が求められる。

### 3. 閉会